

大項目評価の論点整理 ～ 「 業務運営の改善及び効率化に関する項目」 法人の自己評価段階の整理

小項目評価の集計

	今回の 年度評価の 対象項目数	年度計画を大 幅に下回って いる	年度計画を十 分に実施でき ていない	年度計画を順 調に実施して いる	年度計画を上 回って実施し ている	年度計画を大 幅に上回って 実施している
運営体制の改善	14	0	0	13	1	0
教育研究組織の 見直し	3	0	0	1	2	0
人事の適正化	13	0	1	11	1	0
事務等の 効率化・合理化	6	0	0	6	0	0
合計	36	0	1	31	4	0

ウェイト2の項目が1項目(130)あり、これを考慮すると、～の項目の割合は36/37

～の項目が9割以上を占めることから、Bの「おおむね計画どおり」に進捗している、と判断できる

評価において考慮すべき事項

2-1. 小項目評価における「特筆すべき取組」

- (1)自己評価が ・ の項目
  - (130) 全学的経営戦略の推進【 】
  - (145) 総合リハビリテーション学研究所の平成19年度開設準備【 】
  - (146) 部局横断型共同研究の組織的取組として「21世紀学研究所」の設置【 】
  - (150) 事務職員への民間企業経験者等即戦力の活用【 】
- (2)自己評価が ・ の項目
  - (158) 講師以上の職階における任期制導入の検討【 】
- (3)上記のほか「特筆すべき取組」とする項目

2-2. 事務局における確認事項

- (1) 経営戦略を企画立案するマネジメント体制が整備されているか  
マネジメント体制の整備については、計画どおり実施されている。
- (2) 理事長のリーダーシップのもと、効率的・有機的・戦略的な法人経営が行われているか  
人事・財政面の裁量権は確保されており、外部研究資金の実績から理事長のリーダーシップが発揮されていると判断
- (3) 法人の裁量を活かし、総合的な戦略や柔軟かつ迅速な資源配分が進められているか  
理事長、部局長の予算・人事面の権限強化、裁量枠の確保が図られていると判断
- (4) 法人の裁量やマネジメントの仕組みを活かし、資源配分に関する事後チェックと見直しが行われているか  
法人内部の評価システムが整備されつつあり、その中で事後チェックと見直しを行う予定
- (5) 教育研究活動の進展等に対応するため、迅速かつ効率的な意思決定など、業務運営の合理化が進められているか  
理事長、部局長の裁量確保、教授会の審議事項の精選など、業務運営の合理化は進んでいる
- (6) 教育活動を評価する基本的な指標として、収容定員の充足率を一定程度以上満たしているかどうか  
定員充足率については、学部115%、研究科121%となっており、いずれも定員を大きく上回っている
- (7) 経営会議の設置、役員への外部人材登用など、外部有識者の活用により運営の活性化が図られているか  
外部有識者を活用した運営体制が整備されたほか、専門的知識を持った外部人材の活用も進んでいる
- (8) 自己改善サイクル構築の一環として、監事、会計監査人など、内部監査の機能の充実が図られているか  
内部監査や会計監査に向けた組織体制は一定整備されており、監査も実施されている。

「 業務運営の改善及び効率化に関する項目」の大項目評価とその理由

S 「特筆すべき進行状況」  
 A 「計画どおり」  
 B 「おおむね計画どおり」  
 C 「やや遅れている」  
 D 「重大な改善事項あり」

大項目評価の論点整理 ～ 「 財務内容の改善に関する項目 」 法人の自己評価段階の整理

小項目評価の集計

	今回の 年度評価の 対象項目数	年度計画を大 幅に下回って いる	年度計画を十 分に実施でき ていない	年度計画を順 調に実施して いる	年度計画を上 回って実施し ている	年度計画を大 幅に上回って 実施している
外部研究資金等の 自己収入の増加	5	0	1	2	1	1
経費の抑制	8	0	0	7	1	0
資産の運用 管理の改善	3	0	0	3	0	0
合計	16	0	1	12	2	1

ウェイト2の項目が1項目(166)あり、これを考慮すると、～の項目の割合は16/17

～の項目が9割以上を占めることから、Bの「おおむね計画どおり」に進捗している、と判断できる

評価において考慮すべき事項

2-1. 小項目評価における「特筆すべき項目」

- (1) 自己評価が ・ の項目
  - ・(166) 外部研究資金の獲得【 】
  - ・(167) 教員のインセンティブ保持方策実施要綱の制定・支援費の交付【 】
  - ・(174) アウトソーシングや人材派遣サービスの積極的な導入【 】
- (2) 自己評価が ・ の項目
  - ・(170) 適正な学生納付金についての検討【 】
- (3) 上記のほか「特筆すべき取組」とする項目

2-2. 事務局における確認事項

- (1) 法人制度のメリットを活かした財務内容の改善が図られているか  
自己収入の増加については、理事長のリーダーシップ等を活かした取組により、外部研究資金が飛躍的に伸びており、中期計画の目標を初年度で達成している。経費削減についても、柔軟な人事制度や会計制度のメリットを活かして、人件費、一般管理費、施設整備費の削減を図っている。
- (2) 人件費削減に向けた計画的な取組が行われているか  
人員削減については、中期計画策定時から見通しを立てて、計画的に取り組んでいる。  
法人化や3大学統合を契機として、事務部門の集約化、ITの導入、アウトソーシングの推進を図るだけでなく、人材派遣サービスの導入など、弾力的な人事制度を活かした取組を前倒しで行っている。

「 財務内容の改善に関する項目 」 の大項目評価とその理由

- S 「特筆すべき進行状況」
- A 「計画どおり」
- B 「おおむね計画どおり」
- C 「やや遅れている」
- D 「重大な改善事項あり」

大項目評価の論点整理 ～ 「 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」 法人の自己評価段階の整理

小項目評価の集計		今回の 年度評価の 対象項目数	年度計画を大 幅に下回って いる	年度計画を十 分に実施でき ていない	年度計画を順 調に実施して いる	年度計画を上 回って実施し ている	年度計画を大 幅に上回って 実施している
	評価の充実	4	0	0	4	0	0
	情報公開	4	0	0	4	0	0
	合計	8	0	0	8	0	0

ウェイト2の項目が1項目(182)あり、これを考慮すると、～の項目の割合は9/9

すべての項目が～に該当することから、Aの「計画どおり」進捗している、と判断できる

評価において考慮すべき事項	<p>2 - 1 . 小項目評価における「特筆すべき項目」</p> <p>(1) 自己評価が ・ の項目 なし</p> <p>(2) 自己評価が ・ の項目 なし</p> <p>(3) 上記のほか「特筆すべき取組」とする項目</p>	<p>2 - 2 . 事務局における確認事項</p> <p>(1) マネジメントサイクルとして、自己点検・評価及び人事評価が導入されているか 初年度において、法人の自己点検・評価制度、教職員の評価制度について、検討・導入が進められている。</p> <p>(2) 情報発信・情報公開の促進が図られているか 教育研究等の積極的な情報発信、法人制度を踏まえた情報公開の促進などが図られている。</p>
---------------	--	---

「 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」の大項目評価とその理由

S 「特筆すべき進行状況」  
 A 「計画どおり」  
 B 「おおむね計画どおり」  
 C 「やや遅れている」  
 D 「重大な改善事項あり」

大項目評価の論点整理 ～ 「 その他業務運営に関する項目 」 法人の自己評価段階の整理

小項目評価の集計

		年度計画を大幅に下回っている	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を順調に実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を大幅に上回って実施している
施設設備の整備等	10	0	0	9	1	0
安全管理等	5	0	0	6	0	0
人権	6	0	0	5	0	0
合計	21	0	0	20	1	0

ウェイト2の項目が1項目(197)あり、これを考慮すると、～の項目の割合は22/22

すべての項目が～に該当することから、Aの「計画どおり」に進捗している、と判断できる

評価において考慮すべき事項

2-1. 小項目評価における「特筆すべき項目」

(1)自己評価が・の項目  
(197)学舎整備のコスト削減と資金需要平準化のための手法の確定【 】

(2)自己評価が・の項目  
(なし)

(3)上記のほか「特筆すべき取組」とする項目

2-2. 事務局における確認事項

(1)施設・設備について、教育研究の活性化を図る方向で、計画的な整備や効率的な活用が行われているか  
キャンパスの統合・移転、老朽施設の更新に伴い、各種の施設整備が着実に進められている  
財政的制約が大きい中で、柔軟な会計制度のメリットを活かして新たな整備スキームを確立し、コスト削減、資金需要の平準化、事業着手の早期化を図った

(2)適切な危機管理体制が整備されているか、また、危機事象が発生した場合に適切に対応できているか  
マニュアルの策定や緊急連絡体制の整備については、計画どおり実施している。  
危機事象の発生については確認できなかった。

「 その他業務運営に関する項目 」の大項目評価の大項目評価とその理由

S 「特筆すべき進行状況」  
A 「計画どおり」  
B 「おおむね計画どおり」  
C 「やや遅れている」  
D 「重大な改善事項あり」